

滋賀県平和祈念館 年報

第13号

(令和 6 年度)



滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成 24 年 3 月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として開館し、その後、県民のみなさまの御支援により順調に活動をひろげ、以来 13 年を経過しました。この間の本館の活動については、『滋賀県平和祈念館 年報 第 1 号』を平成 25 年 12 月に刊行し、その後は各年度の活動について、それぞれ『年報』にまとめ、報告してきたところです。

本館の来館者と出前授業・講座の利用者を足した利用者数は、昨年度に続いて 2 万 9 千人台であり、コロナ禍以前の水準を超えるまで戻ってきました。

さて、本館の運営にあたっては「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という三つの基本理念のもとで、県民のさまざまな戦争体験を語りつぐ事業として、資料収集保存をはじめ、展示、普及啓発、平和学習支援、ボランティア活動支援などの諸事業を展開しています。

令和 6 年度の企画展示事業としては、前年度の 1 月 5 日から 6 月 23 日まで第 34 回企画展示「暮らしの中の戦争―日々の生業（なりわい）と食事―」、6 月 29 日から 12 月 22 日まで第 35 回企画展示「戦場となった南洋の島々」を、令和 7 年 1 月 8 日からは第 36 回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」を、地域交流室では 10 月 9 日から 2 月 9 日まで川村義肢株式会社歴史展示室などの協力を得て「戦傷病者の社会復帰」を展示しました。

子ども向けの普及啓発事業では、『平和の学校あかり』を 7 回実施し、『平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール』には、県内小・中学校 38 校から 697 点の応募があり、小中学校別に 3 部門の優秀な作品 6 点に対し「知事賞」を授与しました。

一般向けの普及啓発事業では、毎月一度「平和教養講座」、「映画上映会」、端信行前館長による「平和塾・つなぎ人」を開催しています。このほか、8 月の平和祈念 week では、立命館大学の君島東彦教授による講演「立命館大学国際平和ミュージアムの挑戦」、八日市児童合唱「スマッシュ」のミニコンサート、地元中学生の調査報告発表、映画再上映会など平和を祈念する日の事業を数多く実施しました。また、3 月の開館 13 周年記念 week でも「大人のための歴史教室」として、ボランティアの会会長の福島栄寿氏の講演「平和祈念館ボランティアの会に学ぶ」、「平和塾・つなぎ人」の研究発表、映画再上映会とともに、3 月 20 日に布引丘陵・掩体群フィールドワークを実施しました。

この 2 回の行事においては、現在 56 名の登録メンバーからなるボランティアの方たちによる活動報告が行われています。8 月と 3 月にそれぞれ、演劇グループは「鮮血の死化粧」と「おれは生きて帰る」、手紙等解読グループは「特攻兵と遺族の想い」と「能登川 その銃後の暮らし」、戦時食グループは「学童集団疎開とみそ汁の味」と「戦時中の食糧難 お米 10 粒ほどの雑炊」を披露されました。

そして、DX 推進事業の DVD 制作では、戦争体験者証言映像シリーズに 10 作目の「戦争証言 2024」が、滋賀に残る戦争遺跡シリーズには「湖北・湖西編」「湖南編」に加え「湖東編」が制作され滋賀県全域がカバーされました。

これからも祈念館に御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

令和 7 年（2025 年）9 月

滋賀県平和祈念館 館長 朝倉 敏夫

目 次

I 事業概要

1 展示事業

(1) 基本展示	1
(2) 企画展示	1
(3) 企画展示関連事業	4
(4) エントランスバナー	5
(5) 地域交流室展示	5
(6) 収蔵品展示	6
(7) 図書・映像コーナー	7
(8) 他館等との連携展示	7
(9) その他の展示	8

2 資料収集保存事業

(1) 戦争体験聞き取り調査	9
(2) 収蔵資料の整理・保存	10

3 普及啓発事業

(1) 平和教養講座	12
(2) 平和を祈念する日事業	13
(3) 開館 13 周年事業	14
(4) フィールドワーク	16
(5) 映画上映会	16
(6) 平和の学校あかり	17
(7) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール	19
(8) 平和塾・つなぎ人	21

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習	22
(2) 出前授業	23
(3) 地域への平和学習支援	23
(4) 資料の貸出による平和学習支援	24
(5) 戦争体験者証言映像の制作	25
(6) 滋賀に残る戦争遺跡映像の制作	25

5 ボランティア活動支援事業

6 DX（デジタルトランスフォーメーション）推進事業

(1) データベースの公開	28
---------------	----

II 資料

1 利用状況	30
2 広報活動	35
3 組織	37
4 決算	38
5 施設概要	39
6 利用案内	40
7 関係規程	41

I 事業概要

1 展示事業

(1) 基本展示

基本展示は年間を通して見学できる常設の展示であり、滋賀県民と戦争の係わりや地域における戦争の影響など、かつて滋賀県民が経験した 15 年にわたる戦争全体を概観する内容となっている。

展示は滋賀県の地域ごとに戦争に関係した場所を紹介する「地域展示」と、収蔵資料や滋賀県民の戦争体験談を中心に、滋賀県民が体験した戦争の概要を伝える「滋賀県と戦争」の2つのコーナーで成り立っている。「地域展示」では、地域ごとの戦時中のデータ（当時の人口、戦没者数、軍事施設、主な軍需工場、空襲被害、集団学童疎開受入れ）を壁面パネル・柱パネル・床面の滋賀県航空写真で紹介している。

「滋賀県と戦争」では、滋賀県民から寄贈された資料や体験談によって、戦争や戦場での体験と当時の県内の様子を紹介しており、コーナーの最後に現代の子どもたちの平和への願いを取り上げ、「平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール」の受賞作品を世界地図ボードで紹介している。

なお、令和5年2月に東近江市内の工事現場の地中から見つかった旧日本陸軍戦闘機「飛燕（ひえん）」のエンジン（所蔵者：東近江市戦争遺跡の会）を令和5年9月28日から展示しているが、令和6年度には展示台を新たに製作して、令和6年6月19日から展示場所もエントランスに移動し、エンジンが埋められた当時の地元の方の証言パネルとあわせて展示した。

また、映像スクリーンでは、令和5年度に制作した「戦争証言 2023」と「滋賀に残る戦争遺跡－湖南編－」の映像を毎日上映した。



「地域展示」



戦闘機「飛燕」のエンジンと証言パネル

(2) 企画展示

①第34回企画展示『暮らしの中の戦争－日々の生業（なりわい）と食事－』

- ・会期 令和6年（2024年）1月5日（金）～6月23日（日）
- ・会場 滋賀県平和祈念館 企画展示スペース

令和5年度から継続して、第34回企画展示を開催した。



第 34 回企画展示

②第 35 回企画展示『戦場となった南洋の島々』

- ・会期 令和 6 年（2024 年）6 月 29 日（土）～12 月 22 日（日）
- ・会場 滋賀県平和祈念館 企画展示スペース
- ・趣旨

大正 3 年（1914 年）、第一次世界大戦においてドイツに対する宣戦布告を行った日本は、ドイツ領だった太平洋の島々を攻撃し、占領した。大戦終了後、日本はドイツ領だった島々のうち赤道以北部分について、国際連盟から統治を委任された。南洋群島と呼ばれたこれらの島々に多くの移民が送られた結果、サイパンなどでは先住民よりも日本人の方が多く暮らすようになった。南洋群島をはじめ、アメリカ合衆国領やオーストラリアの委任統治領であった南洋の島々は、昭和 16 年（1941 年）からの太平洋戦争において戦場となり、多くの兵士と住民の命が失われた。

企画展示では、南洋群島をはじめとする南洋の島々において、滋賀県民が体験した戦争に関する記憶を、当館が長年にわたって収集してきた関係者の体験談や関連資料などで紹介した。

- ・概要

【太平洋戦争開戦までの南洋群島】

昭和 4 年（1929 年）にパラオに渡った高橋さんの家族など、大正時代から昭和 16 年（1941 年）の太平洋戦争開戦までの南洋群島を紹介した。

【南方への進軍と転進】

太平洋戦争当初、日本軍はニューギニアやソロモン諸島などの島々に進軍したが、昭和 17 年（1942 年）のミッドウェー海戦での敗北以降、戦況が不利になり、「転進」と称して撤退していった状況を、戦場に赴いた兵士等の体験談や関連資料により展示した。

【戦場となった南洋群島】

昭和 18 年（1943 年）頃から本格的な攻勢に転じた連合軍と、南洋群島の島々で激しい戦闘が行われて日本軍部隊が玉砕し、占領されていた状況を滋賀県民の体験談や関連資料により展示した。

【硫黄島玉砕 そして終戦へ】

南洋群島に続いて硫黄島も戦場となってアメリカ軍に占領された。南洋群島を基地として爆撃機が日本本土への空襲を連日のように行い、やがて敗戦を迎えた当時の状況を兵士たちや遺族などの体験談や関連資料により展示した。



第 35 回企画展示



③第 36 回企画展示『戦時下の滋賀県民とスポーツ』

- ・会期 令和 7 年（2025 年）1 月 8 日（水）～6 月 22 日（日）
- ・会場 滋賀県平和祈念館 企画展示スペース
- ・趣旨

明治時代以降、日本人は西洋発祥の様々なスポーツを知り、学校での授業やクラブ活動を通じて体力向上に役立ててきた。太平洋戦争が始まると、日本伝統の武道が奨励される一方で、スポーツの全国大会開催などに対する規制が強まり、さらには食糧増産のために運動場が畑になるなど、スポーツどころではない状況になっていった。

企画展示では、滋賀県民とスポーツとの関わりについて、昭和初期から昭和 20 年（1945 年）の終戦までの 15 年にわたる戦争の期間中を中心に、当館が長年にわたって収集してきた関係者の体験談や関連資料などで紹介した。展示を通して、我々がスポーツを楽しむことができる平和の大切さについて思いを深め、令和 7 年秋に滋賀県で開催される国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会を、多くの方に応援していただくきっかけとして開催した。

- ・概要

【昭和初期のスポーツ】

大正時代から昭和初期にかけて、学生・生徒たちを中心として、さまざまなスポーツが活発に行われていた様子を、学校の卒業アルバムや同窓会誌などに掲載されている写真や当館の所蔵資料や体験談により紹介した。

【戦争によるスポーツ環境の変化】

昭和 12 年（1937 年）からの日中戦争の影響により、物資が統制され、スポーツ用品が不足するような状況となった。一方で武道教育は盛んに行われ、学校教練では模擬戦が行われ、滑空訓練が推奨されるなど、軍事色が強まっていった様子を滋賀県民の体験談や関連資料により展示した。

【戦争の犠牲になったアスリートたち】

当時は一流のスポーツ選手も、男子であれば徴兵検査を受けて兵役につく義務が

あり、職業野球（プロ野球）や明治神宮国民体育大会などで活躍した滋賀県出身のアスリートたちが戦地に派遣され、犠牲となった。当時の状況について、遺族等の証言や関連資料により紹介した。

【エピローグ～スポーツの復興～】

昭和 20 年（1945 年）8 月に、日本はポツダム宣言を受け入れて終戦を迎えた。食糧不足などで苦しい生活に耐えながら、運動会や各種のスポーツ大会が開催されるようになったことについて、体験談や関連資料により紹介した。



第 36 回企画展示



（３）企画展示関連事業

①企画展示説明会の開催

令和 6 年度は、企画展示会期中に担当学芸員による展示説明会を下記のとおり各 2 回実施した。

・第 35 回企画展示

令和 6 年 7 月 15 日（月・祝）	参加者 6 名
8 月 15 日（木）	参加者 30 名

・第 36 回企画展示

令和 7 年 2 月 1 日（土）	参加者 1 名
3 月 22 日（土）	参加者 3 名

②企画展示関連動画の作成

企画展示の見どころを紹介する動画を、第 35 回企画展示については 4 本、第 36 回企画展示については 3 本制作し、当館ホームページで視聴できるよう YouTube で配信した。

③『令和 5 年度滋賀県平和祈念館企画展示等実施報告書』の作成

前年度の企画展示等の内容を紹介する実施報告書を作成した。今回は、令和 5 年度に実施した第 33 回企画展示「滋賀県民が見た中国の戦場」、第 34 回企画展示「暮らしの中の戦争一日々の生業と食事」と地域交流室展示「破られた約束－太平洋戦争下の日系カナダ人－」で展示した資料や展示パネルの内容をまとめた報告書を 300 冊印刷し、公立図書館等に配布した。

(4) エントランスバナー

①『故郷（ふるさと）』

- ・会期 令和6年（2024年）3月13日（水）～令和7年（2025年）3月9日（日）
- ・会場 滋賀県平和祈念館 エントランス
- ・趣旨

昭和のはじめに撮影された故郷の情景をタペストリーとして、エントランスに展示した（平成26年度に第3回特別企画展示として展示したバナーを再度展示したもの）。



エントランスバナー
「故郷（ふるさと）」

②『県民の戦争体験』

- ・会期 令和7年（2025年）3月12日（水）～令和7年度（継続）
- ・会場 滋賀県平和祈念館 エントランス
- ・趣旨

遠く離れて故郷を思った人、無事に帰ってくることを願った人、未来を託して海を渡った人。戦時下を生きた人々は、さまざまな場所で戦争を体験した。

戦中・戦後の写真を通して、地域の出来事、戦争体験者の思いや平和への願いに触れてもらうために、平成27年度に第4回特別企画展示として展示したバナーを再度展示した。

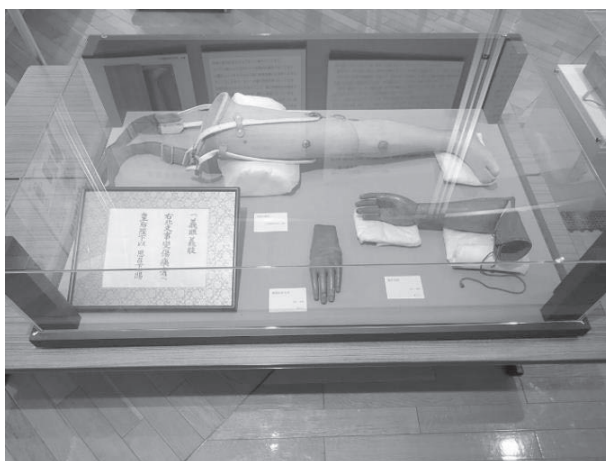
(5) 地域交流室展示

「戦傷病者の社会復帰」

- ・会期 令和6年（2024年）10月9日（水）～令和7年（2025年）2月9日（日）
- ・概要

昭和12年（1937年）以降の長きに渡る戦争では、多くの戦傷病者と戦死者を出した。戦友を戦場に残し、自らは負傷により再び戦地に戻ることができなかった無念を語る方もいた。戦場で失った手足の代わりとして用いられた義肢や装具は、日常生活を取り戻すための大切な支えとなった。展示を通して、戦傷病者の体験談や関連資料により関係者の苦悩とその後の社会復帰への歩みを紹介した。

今回の展示では、川村義肢株式会社と昭和館、日本義手足製造株式会社と兵庫医科大学 道免和久主任教授から、実物資料やパネル、映像資料を御提供いただいた。



（６）収蔵品展示

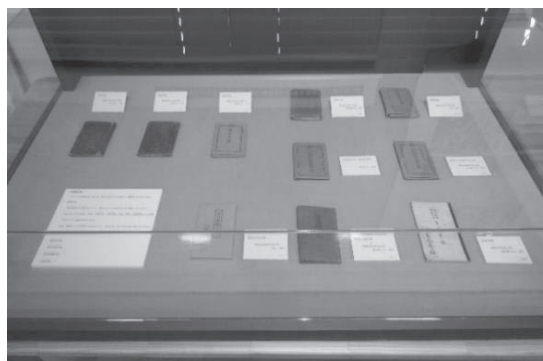
収蔵品展示は、滋賀県民からの寄贈資料をもとに、毎回テーマを設けて展示するコーナーである。

「収蔵品展示（令和５年度）」

展示期間：令和６年（２０２４年）３月２７日（水）～令和７年（２０２５年）３月１６日（日）

令和５年度には、４８名の方から資料の寄贈を受けた。寄贈された資料には、日誌、手帳、手紙、写真、衣服、装備品、地図、雑誌、書類、看板などがあり、当時の状況を伝えている。

今回、その中から、当時の様子がわかる手帳・日誌や家族等とのやり取りの中で心情がくみ取れる手紙、遺書となった最後の手紙などを新たに展示した。

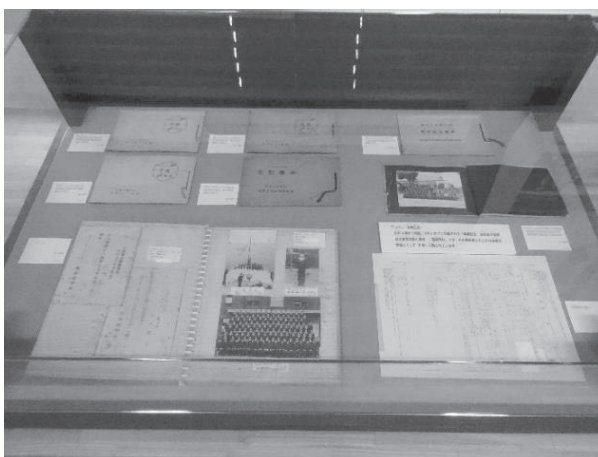
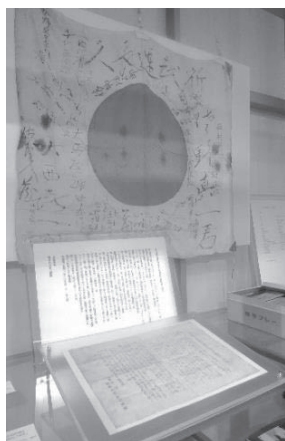


「収蔵品展示（令和6年度）」

展示期間：令和7年（2025年）3月19日（水）～令和7年度に継続

令和6年度には、43名の方から資料の寄贈を受けた。戦後80年を迎え、戦争を体験された方からの資料提供は少なくなり、そのほとんどは、子ども・孫世代が親や祖父母が亡くなった際に、家を整理して見つけた資料である。

令和6年度は、新たに寄贈された資料の一部を、当時の状況がわかるように展示した。



（7）図書・映像コーナー

来館者自らがより深く、滋賀県民の戦争体験や平和の尊さについて学ぶため、戦争に関する概説書、児童書、絵本、コミックなどの図書資料を閲覧に供した。

（8）他館（市町）との連携展示

甲賀市

甲賀市では、毎年戦争の悲惨さと平和の尊さ、世界平和について考える機会とする「平和を願うパネル展」を開催されている。当館は、戦時中の代用品や学徒勤労動員の女学生が巻いたハチマキや慰問袋などを提供した。

会期 令和6年（2024年）8月1日（木）～8月8日（木）

会場 甲賀市役所1階 展示スペース

(9) その他の展示

県庁でのパネル展示

当館で開催した企画展示の内容をコンパクトにまとめたパネル展示を滋賀県庁新館・本館の3階渡り廊下展示スペース、本館1階県民サロンで開催した。

①パネル展示「暮らしの中の戦争」

会 期	会 場
令和6年7月16日（火）～8月1日（木）	県庁3階渡り廊下
令和6年8月1日（木）～8月19日（月）	県庁1階県民サロン

②パネル展示「戦場となった南洋の島々」

会 期	会 場
令和7年1月27日（月）～2月10日（月）	県庁1階県民サロン
令和7年2月12日（水）～2月21日（金）	県庁3階渡り廊下

③パネル展示「戦傷病者の社会復帰」

会 期	会 場
令和7年3月18日（火）～4月4日（金）	県庁3階渡り廊下

2 資料収集保存事業

(1) 戦争体験聞き取り調査

当館では、戦時中滋賀県に住んでいた方、あるいは滋賀県に縁のあった方を対象に、2名の調査員が戦時中の体験について聞き取り調査を行っている。聞き取り調査は、開館以前の平成5年度から継続して実施しており、資料寄贈のみの場合も含めてこれまでに2,400名以上の方の協力を得ている。

戦争体験者の高齢化が進む中、戦闘体験などの第一線での体験談を聞く機会が少なくなり、国民学校や銃後と言われた国内での体験談が増える傾向にある。

令和6年度の調査件数は66件あり、その内15名の方から聞き伝えや直接的な体験談の聞き取りを行った。

地域に残る船木飛行場の記憶と境界石

北船木の皆さん（高島市）

高島市にある県立こどもの国は、かつて旧日本軍の舟木飛行場があった場所である。舟木飛行場は、八日市飛行場から琵琶湖の対岸に位置しており、1922年（大正11年）に、飛行場として整備された。1945年（昭和20年）には、海軍予科練習生約130名が舟木飛行場近くの北船木にある三つの寺院に分宿し、グライダー訓練を行っていた。

【舟木飛行場の空襲】

Nさん：（戦後）みんなで小学校から帰って来ると穴掘って、堤防あたりに。ほんで、そこ掘ってたらほんで薬きょうやら出てきた。

Sさん：そうやな。うん、（昭和20年）7月末…、うん。でも、8月入ってたやろな、あれは。ほんまにそれはもう恐ろしかったけど。自分の記憶は、ちょうど朝の練習に行く前に何人か外にもう出よう出ようちゅうて言うってたけどな。そこへバーっと（敵機が）来よった。で、向こうから旋回する。その、その場合、（敵機は舟木飛行場の）格納庫を狙いよんにや。で、そういうなんで、あそこの飛行場にいはった人もいたらしいけども、それは死ななんだな。死んだとは誰も、なかった。聞かなんだな。恐ろしかったちゅうことは聞いたけど。で、その当時、グラマンが彦根のほうから、ほんま、低い低いとこで来よるんや。それは見たわ。

また、舟木飛行場の周辺の農地では、陸軍が設置したと思われる境界石が2基確認されている。設置当時は、飛行機の離着陸に影響を及ぼすおそれのある高木などについて、伐採が求められていたと伝えられている。

(2) 収蔵資料の整理・保存

当館では、滋賀県民の戦争体験に関する資料や戦時の滋賀県に関連する資料を 59,000 点以上所蔵し、その整理・保管を行っている。令和 6 年度は、新たに 954 点の資料を収集した。収集した資料のほとんどは、滋賀県民がこれまで所蔵されていたものである。

次世代につなげて活かしていくために、収集した資料は大切に整理・保管・活用している。寄贈資料には、戦時中の軍隊や日常生活に関するものがあり、これらの資料から当時の状況を調べ、基本展示や企画展示として公開している。

また、これらの資料は学習教材としても活用し、実際に実物に触れてもらうことで、当時の様子を感ずることができるようにしている。

～ 令和 6 年度受け入れ資料の事例 ～

保管箱

木箱は、軒下で見つけられた。詳しいことはなにも聞かれていない。中に入っていた遺品から、祖父の戦死された兄のものと思われ、家族も知らなかった身近な方の体験を顧みる機会となった。

缶箱は、新しいもので、戦後、持っておられた方が戦争当時のものを整理され、その方の思いがつまったものとなっている。



木箱

佐野香代子さん提供



缶箱

個人提供

写 真

当時の状況を具体的に見ることができ、その背景などがわかる資料となっている。



家族写真

写真の折れ目や欠落などの傷みから、肌身離さず持っておられたことが想像できる。

山下寛さん提供



葬列写真

アルバム「支那事変記念」から。遺骨箱の葬列に目にとまる。

山下寛さん提供

図囊など



図囊

軍隊で使われていた図面や小物を入れて持ち運んだ革製の鞆

佐野香代子さん提供

3 普及啓発事業

(1) 平和教養講座

●事業概要

滋賀県民の平和意識の醸成を目的に、多角的な視点から平和について考えるための講演と企画展に関連する講演を館内外の講師により、原則、毎月第3土曜日に実施した。(ただし、8月、3月は除く。)

●実績

参加者総数 190 人

内 訳

(上期)

回	月日	曜日	テーマ	講師等氏名	講師所属等	参加者数
第1回	R6.4.20	土	「食からみた戦争と平和－第一次世界大戦時のドイツを例として－」	南 直人	立命館大学食マネジメント学部教授	19
第2回	R6.5.18	土	「子供たちの「食」を守る－学童疎開先の食生活－」	鎌谷 かおる	立命館大学食マネジメント学部教授	22
第3回	R6.6.15	土	「彦根市安清町文書と滋賀新聞にみる暮らしの中の戦争」	日高 昭子	滋賀県平和祈念館学芸員	19
第4回	R6.7.20	土	「戦争と民俗学－沖縄戦の伝承記録から平和創造学へ」	山内 健治	明治大学政治経済学部教授	13
第5回	R6.9.21	土	「平和の経済学」	谷垣 和則	立命館大学食マネジメント学部教授	22

(下期)

第6回	R6.10.21	土	「ソロモン諸島の人びとにとっての太平洋戦争－現地住民の戦争体験を中心に」	藤井 真一	国立民族学博物館超域フィールド科学研究部	6
第7回	R6.11.16	土	「太平洋戦争の影－フィジーの砲台から国立民族学博物館所蔵のバプアニューギニア資料まで」	丹羽 典生	国立民族学博物館グローバル現象研究部 教授	17
第8回	R6.12.21	土	「写真・証言・絵本からひも解くサイパンの戦争記憶－チャモロと沖縄の人びとの経験に着目して」	森 亜紀子	同志社大学＜奄美・沖縄・琉球＞研究センター 研究員	23
第9回	R7.1.18	土	「義肢の歴史 川村義肢歴史展示室の資料紹介」	剣持 悟	川村義肢株式会社	27
第10回	R7.2.17	土	「大阪コリアタウンの誕生と変遷－戦前から現在まで」	高 正子	大阪コリアタウン歴史資料館 館長	22

(2) 平和を祈念する日事業

- 開催期間：令和6年（2024年）8月10日（土）～15日（木）
- 期間中来館者：約1,150名
- 事業概要

「平和を祈念する日事業 平和祈念 week2024」として、平和学習講座、地元中学生による調査報告やボランティアグループ発表会、映画上映会などを開催した。



案内チラシ

① 平和学習講座「立命館大学国際平和ミュージアムの挑戦」

講師：君島 東彦氏（立命館大学国際平和ミュージアム館長）

「対話」をキーワードに、来館者が平和創造の主体者となるためのヒントを提供する「平和創造の拠点」として、2023年にリニューアルオープンした同ミュージアムの在り方と事例が紹介された。

② 地元中学生による調査報告発表「海軍久徳飛行場の調査報告」

発表者：馬島 楓さん（彦根市立東中学校2年生）

多賀町久徳地区周辺にかつて存在したとされる海軍久徳飛行場について、以前から現地調査や周辺の人々への聞き取りなどを行い、自身がまとめた内容を発表された。



発表のようす

③ ボランティアグループ発表会

演劇グループ、戦時食再現グループおよび手紙等解読グループの3グループがそれぞれの活動について発表した。

◆演劇グループ「鮮血の死化粧」

◆戦時食再現グループ「学童集団疎開と“みそ汁の味”」

◆手紙等解読グループ「特攻兵と遺族の想いー海軍航空隊 碓本守さんご家族・ご友人ー」

④ 八日市児童合唱「スマッシュ」ミニコンサート

東近江市を拠点に幼児から高校生まで幅広い年齢層のメンバーが在籍する八日市児童合唱「スマッシュ」による平和を願うミニコンサートを実施した。

⑤ 映画再上映会

令和6年3月から7月に上映した作品を再上映した。

⑥ 企画展示説明会

第35回企画展示「戦場となった南洋の島々」について、学芸員が見どころ等を紹介した。

(3) 開館13周年記念事業

●開催期間

令和7年(2025年)3月19日(水)～23日(日)

●期間中来館者数: 約480名

●事業概要

例年どおり、当館が開館した3月17日付近の休日を中心に周年記念事業として開催した。



案内チラシ

① 大人のための歴史教室「平和祈念館ボランティアの会に学ぶー手紙等解読班に参加してー」

講師: 福島 栄寿 氏 (滋賀県平和祈念館ボランティアの会会長)



大人のための歴史教室

② ボランティアグループ発表会

演劇グループ、戦時食再現グループおよび手紙等解読グループの3グループがそれぞれの活動について発表した。



演劇グループ
「おれは生きて帰る」



戦時食再現グループ
「戦時中の食糧難 お米 10 粒ほどの雑炊」



手紙等解読グループ

「能登川 その銃後の暮らし

ー昭和 19・20 年度日誌 乙女浜区長事務所
を通してー」

③ 映画上映・再上映会

映画「52 ヘルツのクジラたち」上映会、令和6年8月から令和7年2月に上映した人気作品の再上映会を行った。

④ 企画展示説明会

第36回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」について、学芸員が見どころ等を紹介した。

(4) フィールドワーク

●開催日時：令和7年（2025年）3月20日（木・祝）

9：30～12：00

●会場：布引掩体群一帯（東近江市芝原町周辺）

●参加者数：18名

●事業概要：当館で事前学習（座学）を実施した後、当館学芸員の解説を聞きながら布引丘陵・掩体群を徒歩でめぐるフィールドワークを実施した。



学芸員の解説を聞く参加者たち

(5) 映画上映会

●事業概要（開催日程および参加者数）

毎月1回（第3日曜日）、前期（4月～9月）は13：30からのみ、後期（10月～3月）は午前の部（10：00から）・午後の部（13：30から）の二部制で実施した。（定員各80名）

●実績（総計908人）

開催月日	タイトル	参加者数(人)
4月21日	ラーゲリより愛を込めて	52
5月19日	ハナ 奇跡の46日間	78
6月23日	P L A N 7 5	91
7月21日	オペレーション・ミンスミート	75
8月25日	二重被爆	80

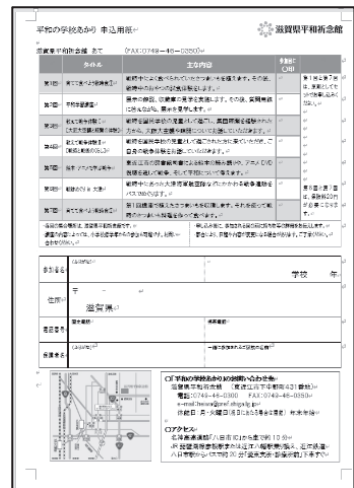
9月22日	橋	84
10月20日	まぶいぐみ ニューカレドニア 引き裂かれた移民史	53
11月17日	ぼくたちは見た/ガザ・サムニ家の子どもたち	44
12月22日	コーダ あいのうた	50
1月26日	極限境界線救出までの18日間	88
2月23日	チェルノブイリ 1986	70
3月23日	52 ヘルツのクジラたち	143

(6) 平和の学校あかり

●開催日（令和6年(2024年)）

第1回	6月1日
第2回	7月27日
第3回	8月3日
第4回	8月10日
第5回	8月17日
第6回	9月28日
第7回	10月5日

計7回



●参加者数 延べ211名

募集案内

●事業内容

①「育てて食べよう戦時食①」(6月1日)

戦時中の代用食のひとつであるサツマイモをあいとうマーガレットステーションの職員指導のもと実際に植えた。戦時食再現ボランティアグループの方から戦時中の食糧事情について話を聞き、戦時のおやつを試食した。野草探しゲームも行った。



②「平和学習講座【ミニバックヤードツアー、缶バッジづくりなど】」（7月29日）

館内見学やバックヤードツアーの後、ワークシートに取り組みながら館内の展示見学をし、オリジナル缶バッジづくりも行った。



③「教えて戦争体験Ⅰ【大阪大空襲と疎開の体験】」（8月3日）

戦時中、国民学校に通学されていた中原敏雄さんに、大阪大空襲、当時のくらしや学校の様子について話を聞いた。



④「教えて戦争体験Ⅱ【戦時と戦後のくらし】」（8月10日）

戦時中、国民学校に通学されていた野村宗一さんに、戦争体験の話を聞いた。



⑤「絵本・アニメで学ぶ戦争」（8月17日）

図書館司書による絵本の読み聞かせとブックトーク、アニメ「焼け跡のお菓子の木」の視聴を通して、戦争と平和について考えた。



⑥「戦跡めぐり in 大津」(9月28日)

大津市に残る戦争遺跡を、当館学芸員の説明を聞きながら見学した。



⑦「育てて食べよう戦時食②」(10月5日)

あいとうマーガレットステーションの職員指導のもと、サツマイモを収穫した。戦時食再現ボランティアグループの方から戦時中の食糧事情について話を聞き、戦時食を実際に調理し、試食を行った。



(7) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール

●期間：令和6年(2024年)11月2日(土)～令和7年(2025年)1月31日(金)

●表彰式：令和6年(2024年)11月2日(土)

●事業概要

次世代を担う子どもたちが、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子どもたちが描く絵画を通して、多くの方に平和への思いを伝えることを目的として実施した。

●実績

作品総数 697 点 (38 校) (うち小学校 216 点 (25 校)、中学校 481 点 (13 校))



作品展示風景

(1) 小学生の部

ピース部門（館活動との一致性を評価）		作品	選定理由
（よみがな）	うえの ゆづき		千羽鶴が届ける平和への祈りを不戦へのメッセージとあわせて表現しています。
対象者氏名	上野 結月		
所属学校名	大津市立長等小学校		
ハート部門（製作者の心情を評価）		作品	選定理由
（よみがな）	まるちんす・ぶらんどん		平和を表す白い鳥を中心に、世界の国々がつながることが画面いっぱいに表現されています。また、周りに丁寧に描かれている人々の笑顔が印象的で、平和でみんながあたたかい心で過ごせる世界にしたいという思いが伝わってきます。
対象者氏名	マルチンス・ブランドン		
所属学校名	湖南省市立下田小学校		
オリブ部門（絵画的技能を評価）		作品	選定理由
（よみがな）	いしい かんた		地球から木が生えていて、それぞれ違う色の葉や花が茂っており、いろいろな虫が周りにいる。平和に寝転んでいる人物などバランス良く配置されています。花などに絵具をつけたスタンピングや中央の貼り絵など、いろいろな技法、画材を組み合わせ、密度の高い見て楽しい画面となっています。
対象者氏名	石井 幹大		
所属学校名	甲賀市立大野小学校		

(2) 中学生の部

ピース部門（館活動との一致性を評価）		作品	選定理由
（よみがな）	やまぐち みさと		沖縄でのひまわりの花の意味を知り、そこに命の大切さをメッセージとして伝えています。
対象者氏名	山口 珠咲百		
所属学校名	立命館守山中学校		
ハート部門（製作者の心情を評価）		作品	選定理由
（よみがな）	ひさた あつき		世界中の子どもたちが、力を合わせて一枚の絵をつくりだす様子が描かれています。この様子から、「世界の子どもたちが心を一つに平和な世界をつくりだす」というメッセージが伝わってきます。貼り絵、パステル調で描かれた人々、ぼかしの技法を使った背景で、自分の主題を工夫して表現しています。
対象者氏名	久田 愛月		
所属学校名	長浜市立南中学校		
オリブ部門（絵画的技能を評価）		作品	選定理由
（よみがな）	はただ ゆき		構図、色合いともに良く考えられています。周りの白地部分をとることで視点が中央に集中するという意図も効果的です。水彩絵具の特性を生かした薄い色の塗り重ねが大変優しい、平和的な雰囲気を出しています。
対象者氏名	畑田 ユキ		
所属学校名	東近江市立聖徳中学校		

【佳作】

◆小学校

彦根市立城陽小学校 内藤 澄和（ないとう とあ）
彦根市立旭森小学校 馬場 零音渚（ばば れおな）
湖南省市立下田小学校 檜垣 七斗（ひがき ななど）

◆中学校

長浜市立南中学校 毛利 栞（もうり しおり）
東近江市立聖徳中学校 磯井 朝陽（いそい あさひ）
滋賀大学教育学部附属中学校 清水 瑚心（しみず ここ）

(8) 平和塾・つなぎ人(びと)

●開催日時 年4回(6・9・12・3月)

●参加者数 延べ16名

●事業概要

戦争体験者の高齢化がすすむ中、つなぎ人(語り部)の育成は開館当初から当館の重要な役割と位置づけられており、「平和塾・つなぎ人(びと)」として開催している。令和6年10月には、平和塾文集『つなぎ人・第二集』を刊行した。

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習

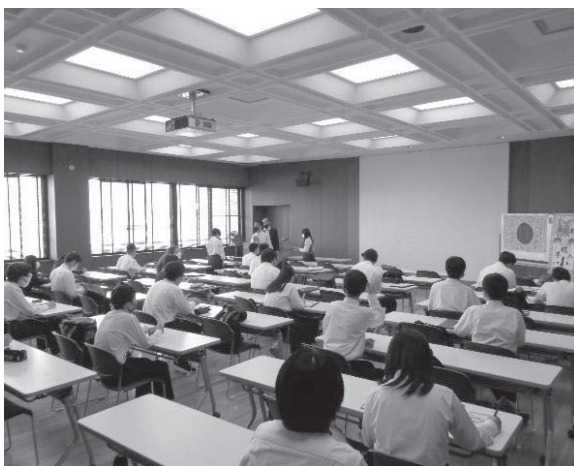
来館学校数（実績）

※（）内は前年度の実績

	総数	小学校	中学校	高等学校	大学・短大
学校数	51 校 (68 校)	39 校 (54 校)	10 校 (9 校)	0 校 (4 校)	2 校 (1 校)
児童・生徒数	2,743 人 (3,796 人)	2,019 人 (2,885 人)	669 人 (778 人)	0 人 (109 人)	55 人 (24 人)

主な学習方法

- ・ 展示見学
学校が作成するワークシートや当館が作成した見学シートを用いた調べ学習
- ・ 当館職員による平和学習（戦争証言映像の視聴を含む）
- ・ 平和の燈前での平和セレモニーや平和集会



来館学習（展示見学・平和学習）と寄贈された折鶴など

(2) 出前授業

出前授業実施校（実績）

※（）内は前年度の実績

	総数	小学校	中学校	高等学校	大学・短大
学校数	136 校 (115 校)	95 校 (85 校)	31 校 (21 校)	8 校 (6 校)	2 校 (3 校)
児童・生徒数	10,524 人 (9,649 人)	6,256 人 (6,369 人)	3,055 人 (2,092 人)	1,019 人 (1,019 人)	194 人 (169 人)

主な学習方法

- ・実物資料や写真・動画の提示
- ・体験談の提示
- ・当館職員による平和学習（戦争証言映像の視聴を含む）



出前授業のようす（県内中学校にて）

小中学校の来館学習については、前年度と比べ 14 校（975 人）減少した。一方、総合的な学習の平和学習や社会科の歴史学習の一環として利用する県内小中学校に対する出前学習については、前年度と比べ 20 校（850 人）増加した。

(3) 地域への平和学習支援・教職員等への研修

区分	実施件数（人数）※【 】内は前年度の実績
来館学習	54 件（1,366 人）【57 件（1,487 人）】
出前講座	33 件（1,411 人）【41 件（1,513 人）】
教職員研修	6 件（193 人）【5 件（153 人）】

主な内容

- ・「滋賀への空襲」
- ・「滋賀県各地にまつわる戦争の記録」

- ・「戦争と滋賀」
- ・地域に関する証言映像の視聴

平和学習支援事業（来館・出前講座）の実施件数は、前年度と比べて 11 件（223 人）減少したものの、一定数のリピーターもあることから、平和への意識や関心を高めるきっかけづくりの場として定着してきている。



出前講座のようす（地域の人権研修にて）

（４）資料の貸出による平和学習支援

当館では、学校や地域への平和学習支援として、実際に触れることができるハンズオン資料やパネル、戦争体験者証言映像の貸出を行っている。

学校への貸出としては、7 月から 11 月までの期間は、視聴覚資料とハンズオン資料の貸出が多かった。地域への貸出としては、夏期にパネルの貸出が多かった。

令和 6 年度は、新たに「滋賀に残る戦争遺跡 一湖東編一」、「戦争証言 2024」を制作し、令和 7 年度から貸出を始めた。

○資料貸出しの実績

- ①学校への貸出 10 校（小学校 7 校、中学校 3 校）
- ②地域への貸出 27 件

○貸出資料の種類

①ハンズオン資料

千人針、臨時召集令状（複製）、出征たすき、防空頭巾、配給切符、慰問袋、鉄かぶと、ゲートル、国防婦人会たすき、いなご採り袋、雑誌「週刊少国民」（ラミネート版）、カルタ「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）、双六「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）

②パネル

- Aセット（16 枚組）3 セット
- Bセット（20 枚組）3 セット
- Cセット【滋賀で学ぶ戦争の記録】（16 枚組）3 セット
- 写真・ポスター類（64 枚）

③小学校国語科読み物教材

「一つの花」対応セット

④視聴覚資料

- ・滋賀県民の戦争体験証言ビデオ
「記憶の湖（うみ）」17本
- ・小中学校向けアニメ画入りの戦争体験証言映像
「大阪から来た女の子」、「滋賀県満州報国農場の若者たち」
- ・2014、2015、2016、2017、2018、2019、2020、2022、2023、2024年度制作の戦争体験者証言映像（DVD版・BD版）
- ・滋賀に残る戦争遺跡映像（湖北・湖西編、湖南編、湖東編）
- ・その他、戦争や平和に関するDVD

（５）戦争体験者証言映像の制作

戦争体験者の体験談を映像として記録・保存するとともに、多くの方が戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶための映像教材として、戦争体験者証言映像を制作した。平成26年度から事業を開始し、今回で10作目である。

6名の体験者に出演いただき、以下の6本の映像を制作し、『戦争証言2024』としてまとめた。この映像は希望者に対してDVD、Blue-rayでの貸出を行うとともに、Youtube配信を行い、当館ホームページからも閲覧できるようにした。

『戦争体験者証言映像 戦争証言2024』DVD・Blue-ray

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ・映像1「少年通信兵が経験した台湾」 | 廣 喬さん（15分） |
| ・映像2「集団疎開を描く 大阪ミナミから東近江へ」 | 成瀬 國晴さん（15分） |
| ・映像3「集団疎開と大阪空襲」 | 中原 敏雄さん（16分） |
| ・映像4「仲間を見送った少年飛行兵」 | 野口 豊さん（15分） |
| ・映像5「銃後の暮らし 食べる事とお父さん」 | 中澤 光子さん（15分） |
| ・映像6「満州から中国へ 終わらない戦争」 | 玉木 謙壽さん（15分） |

（６）滋賀に残る戦争遺跡映像の制作

出前授業や来館学習では、実物資料に触れながら平和学習することができる一方で、現在も滋賀県内に残っている戦争遺跡を実際に見学する機会がほとんどないため、バーチャル体験学習用教材として、滋賀に残る戦争遺跡DVDを作成した。

当館発行「滋賀県戦争遺跡分布調査報告書」をもとに、現在も県内に残る戦争遺跡を撮影し、戦時の写真と対比し、わかりやすい解説を入れて戦争遺跡を紹介している。

令和6年度は最終編として、湖東編（彦根市・近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町）を作成した。軍事施設、暮らし、避難壕、空襲と4つのテーマに分けて編集し、時間は全体で約30分程度になっている。

貸出用・映像教材ソフト

DVD VIDEO MurrayGlobe

戦争に残る
戦争遺跡

— 湖東編 —

未来へつなぐ 戦争の記憶 平和への思い

滋賀県平和祈念館

周知チラシ（表裏）

5 ボランティア活動支援事業

当館では、開館に先立って平成 23 年度から当館の活動に参加いただけるボランティアの募集を開始した。令和 6 年度末時点でのボランティア登録者数は 52 名で、20 代から 80 代までの幅広い世代の方が登録している。

具体的な活動内容としては、来館者案内活動、戦時食再現活動、手紙等解説活動、演劇活動、情報紙「平和の灯」制作やInstagram発信を行う活動、戦争体験者から体験談を聞いて記録する活動、『写真週報』を読み解く活動などが行われている。また、開館周年記念事業などの館事業への協力も継続して行われている。

ボランティアの様々な経験に基づいた知識や技術、さらにはその主体的な活動を通して、当館の活動の幅は確実に広がり、多様なものとなっている。今後もボランティア活動を通して、利用者と積極的に交流していただき、さらには『利用者と館とをつなぐかけ橋』の役割を担っていただくことを期待し、当館ではそのためのサポートを行っている。

ボランティア活動の紹介

来館者案内活動グループ	館内で来館者に展示等の説明などの案内を行います。
戦時食再現グループ	食べるものがなかった戦争末期から戦後の生活苦を感じ、「食」の大切さについて考えます。
演劇グループ	平和や戦争をテーマにした演劇を創作し、上演する活動をします。
手紙等解説グループ	戦争中の手紙や日記などを、読みやすいように解説する作業をします。
聞き取りグループ	戦争体験者の方からお話を聞き、記録する活動をします。
PR活動グループ	情報紙「平和の灯」の制作やInstagramによる発信を行います。
大凧づくりグループ	東近江大凧まつりに向けて、ミニ大凧（2 畳）をつくり、平和への願いや当館の活動をPRします。
館イベント補助グループ	館が実施するイベントの補助を行う活動をします。
語り部・語り継ぎ部グループ	自らの体験や戦争体験者の方々から聞いた話をもとに、戦争体験を語り継いでいく活動をします。
『写真週報』読み解きグループ	戦時中に発行されていた『写真週報』を読み解く活動をします。

6 DX（デジタルトランスフォーメーション）推進事業

（1）データベースの公開

令和6年度、いつでも、どこでも、だれでも当館の収集した戦争体験談や収蔵資料を調べることができる「バーチャル語り部・収蔵資料データベース」を当館のホームページ上に開設した。過去の企画展示で紹介した体験談、関連する収蔵資料、図解等を検索し、閲覧することができる。

令和6年度は、あらたに、第18回から第21回までの企画展示に関する体験談や収蔵資料など449件を公開した。今後も継続してデータベースの公開作業を行っていく。

「滋賀県平和祈念館 バーチャル語り部・収蔵資料データベース」

URL:<https://jmapps.ne.jp/sgheiwa/>

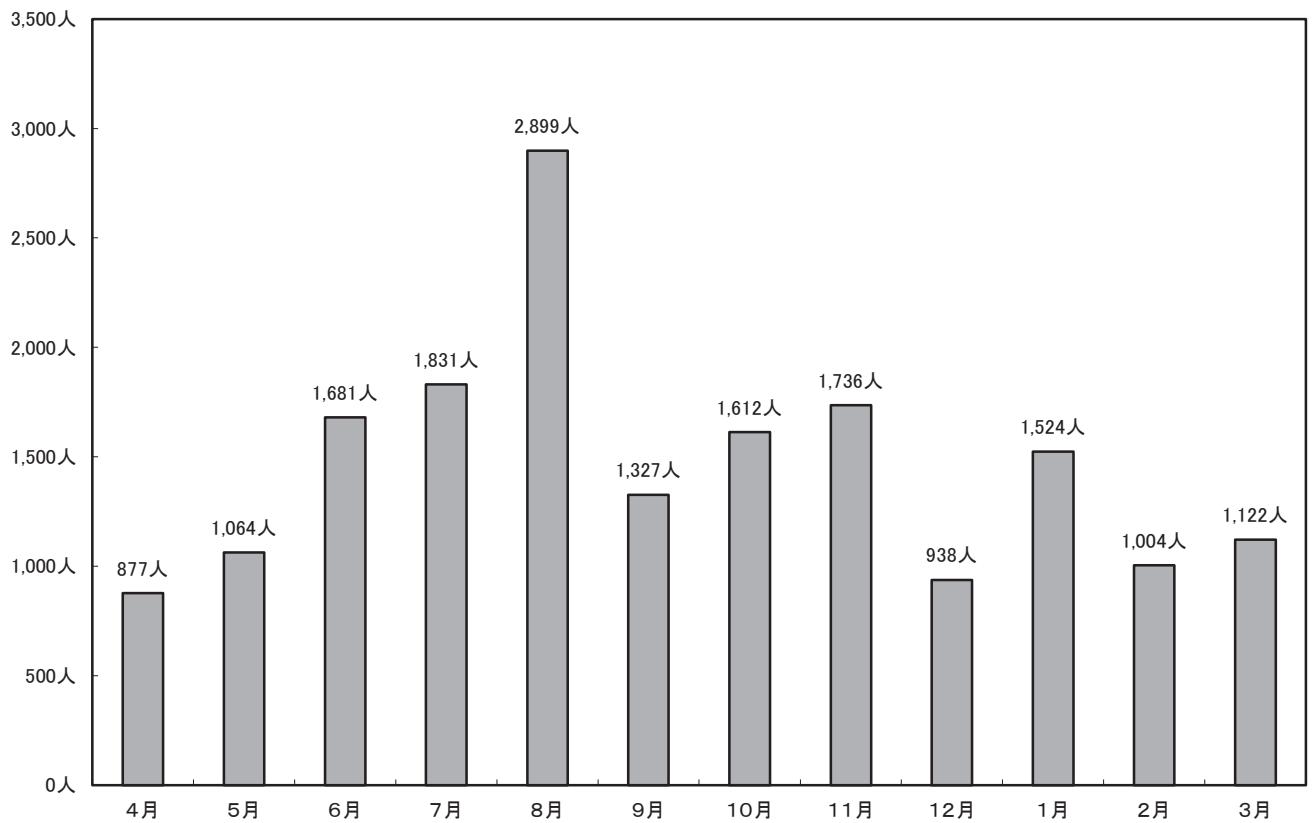


Ⅱ 資料

1 利用状況

(1) 月別来館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開館からの 累計
開館日数	21日	24日	19日	26日	29日	23日	23日	23日	16日	19日	22日	22日	267日	3,364日
来館者数	877人	1,064人	1,681人	1,831人	2,899人	1,327人	1,612人	1,736人	938人	1,524人	1,004人	1,122人	17,615人	266,628人
1日あたりの 平均来館者数	42人	44人	88人	70人	100人	58人	70人	75人	59人	80人	46人	51人	66人	79人



(2)来館学習・出前授業実施校

来館

(単位:人)

年	月	日	学校名等	人数
令和6	5月	1	甲賀市立水口東中学校	80
	6月	6	島本町立第二中学校	140
		13	東近江市立愛東南小学校	17
		13	大津市立比叡山中学校	80
		19	愛荘町立秦荘西小学校	46
		26	草津市立志津小学校	182
	7月	4	東近江市立市原小学校・山上小学校	33
		4	東近江市立愛東中学校	28
		5	立命館守山中学校	184
	8月	1	湖南省立夏美会館	40
		7	豊郷町社会福祉協議会	117
		8	滋賀県立大学	23
	9月	11	神戸市立白川台中学校	85
		11	竜王町立竜王西小学校	48
	10月	11	東近江市立布引小学校	48
		17	野洲市立中主小学校	33
		24	野洲市立中主小学校	33
		31	東近江市立五個荘小学校	108
	11月	1	野洲市立中主小学校	34
		7	東近江市立愛東中学校	28
		8	米原市立河南中学校	22
		15	東近江市立愛東北小学校	13
		20	湖南省立岩根小学校	26
		20	彦根市立稲枝中学校	12
		21	東近江市立湖東第三小学校	26
		22	東近江市立能登川西小学校	27
		22	大津市立田上小学校	60
		26	近江八幡市立武佐小学校	30
		27	東近江市立蒲生東小学校	24
		29	東近江市立蒲生北小学校	39
	12月	3	湖南省立下田小学校	59
		5	東近江市立市原小学校	13
		5	東近江市立山上小学校	20
令和7	1月	10	東近江市立能登川南小学校	98
		15	東近江市立蒲生西小学校	86
		15	滋賀県立農業大学校	32
		16	東近江市立御園小学校	71
		16	愛荘町立秦荘東小学校	51
		17	東近江市立箕作小学校	87
		21	東近江市立八日市南小学校	84
		22	東近江市立八日市西小学校	46
		24	東近江市立能登川東小学校	84
		29	東近江市立湖東第一小学校	22
		31	東近江市立玉緒小学校	36
		31	愛荘町立愛知川東小学校	38
	2月	5	東近江市立能登川北小学校	11
		7	東近江市立八日市北小学校	77
		7	愛荘町立愛知川東小学校	30
		12	愛荘町立愛知川東小学校	30
		14	湖南省立三雲小学校	92
	3月	8	福知山児童センター	10
51 校				2,743 人

出前

(単位:人)

年	月	日	学校名等	人数
令和6	5月	7	甲賀市立朝宮小学校	6
		9	湖南市立日枝中学校	120
		16	甲賀市立佐山小学校	16
		22	滋賀大学教育学部	79
		23	高島市立本庄小学校	11
	6月	4	草津市立老上西小学校	116
		12	滋賀県立伊吹高等学校	110
	7月	3	びわこ学院大学4回生	115
		5	草津市立山田小学校	61
		8	大宝東小学校	59
		9	近江八幡市立島小学校	19
		9	甲賀市立甲南中学校	76
		10	草津市立笠縫東小学校	117
		11	甲賀市立甲南中学校	73
		12	甲賀市立甲南中学校	35
		12	草津第二小学校	115
		22	八日市南こどもの家	100
		23	八日市南こどもの家	50
		25	箕作こどもの家	85
		26	箕作こどもの家	85
		30	東近江市社会福祉協議会	40
	8月	2	湖東第一こどもの家	29
		3	栗東歴史民俗学物館	10
		6	近江八幡学区コミセン	40
		7	玉緒こどもの家	79
	9月	3	竜王町立竜王西小学校	48
		5	県立守山中学校	78
		12	草津市立老上小学校	148
		13	大津市立石山小学校	82
		17	彦根市立城南小学校	119
		18	守山市立小津小学校	70
		19	守山市立速野小学校	129
		20	大津市立小松小学校	28
		26	東近江市立五個荘小学校	108
		27	仰木の里東小学校	77
		30	大津市立瀬田南小学校	100
	10月	1	高島市立青柳小学校	17
		10	大津市立瀬田東小学校	161
		11	大津市立膳所小学校	110
		15	近江八幡市立馬淵小学校	22
		15	近江八幡市立桐原小学校	102
		16	大津市立晴嵐小学校	141
		17	草津市立志津小学校	136
		18	大津市立瀬田北小学校	178
		18	近江兄弟社高等学校	80
		22	大津市立富士見小学校	68
		23	大津市立青山小学校	121
		23	滋賀県立信楽高等学校	55
		25	東近江市立湖東第二小学校	20
		25	米原市立河南中学校	17

出前

年	月	日	学校名等	人数
令和6	10月	30	近江八幡市立老蘇小学校	21
		31	東近江市立愛東中学校	38
	11月	1	近江八幡市立岡山小学校	104
		5	草津市立草津小学校	92
		7	近江八幡市立北里小学校	52
		8	大津市立日吉台小学校	24
		8	大津市立中央小学校	71
		11	甲賀市立小原小学校	12
		11	滋賀大学教育学部付属中学校	107
		12	守山市立立入りが浜小学校	88
		12	草津市立常盤小学校	50
		13	甲賀市立水口小学校	83
		13	滋賀県立湖南農業高等学校	138
		14	高島市立高島小学校	51
		15	大津市立逢坂小学校	90
		15	愛荘町立愛知中学校	159
		18	大津市立下坂本小学校	121
		19	高島市立マキノ東小学校	6
		19	高島市立マキノ西小学校	5
		25	竜王町立竜王小学校	74
		27	米原市立大東中学校	91
		28	栗東市立治田東小学校	80
		28	栗東市立葉山東小学校	81
	12月	2	草津市立玉川小学校	93
		3	大津市立藤尾小学校	30
		4	彦根市立旭森小学校	136
		5	甲賀市立伴谷東小学校	62
		6	米原市立山東小学校	38
		6	米原市立伊吹小学校	10
		6	米原市立春照小学校	27
		6	米原市立伊吹中学校	54
		6	米原市立柏原中学校	20
		6	米原市立坂田小学校	75
		9	大津市立瀬田小学校	188
		10	米原市立米原中学校	65
		10	米原市立河南中学校	23
		10	米原市立双葉中学校	112
		10	米原市立大東中学校	91
		12	米原市立大原小学校	60
		12	米原市立米原小学校	74
		12	米原市立柏原小学校	10
		12	米原市立河南小学校	30
		12	米原市立息長小学校	35
令和7	1月	9	高島市立朽木東小学校	14
		9	高島市立和邇小学校	69
		14	長浜市立田根小学校	10
		14	愛荘町立秦荘中学校	92
		17	高島市立新旭南小学校	51
		20	彦根市立稲枝北小学校	22
		21	草津市立洪川小学校	88
		23	長浜市立永原小学校	14
		23	長浜市立びわ南小学校	30
		24	彦根市立平田小学校	36
		27	彦根市立金城小学校	116
		28	長浜市立長浜小学校	127
		29	滋賀県立守山養護学校	1
		30	彦根市立稲枝東小学校	53
		30	豊郷町立豊日中学校	65
		30	豊郷町立日栄小学校	36

出前

出前

年	月	日	学校名等	人数
令和7	2月	3	湖南省立石部南小学校	44
		4	彦根市立稲枝西小学校	20
		4	近江八幡市立金田小学校	154
		6	彦根市立城陽小学校	33
		10	滋賀県立北大津高等養護学校	14
		13	野洲市立野洲中学校	155
		17	大津市立真野北小学校	33
		18	甲賀市立希望ヶ丘小学校	96
		19	長浜市立古保利小学校	16
		19	彦根市立稲枝中学校	104
		20	日野町立日野小学校	107
		25	野洲市立祇王小学校	60
		25	野洲市立祇王小学校	30
		26	彦根市立彦根南中学校	223
		28	甲賀市立甲賀中学校	70
	3月	3	東近江市立船岡中学校	70
		4	守山市立明富中学校	150
		5	東近江市立能登川中学校	214
		6	湖南省立甲西中学校	126
		7	日野町立日野中学校	199
		7	東近江市立玉園中学校	101
		12	近江八幡市立安土中学校	120
		12	野洲市立野洲中学校	200
		13	米原市立柏原中学校	7
		17	大津市立東大津高等学校	352
		19	滋賀県立八幡商業高等学校	240
		19	滋賀県立彦根工業高等学校(定時制)	30
136 校				10,524 人

2 広報活動

報道記録(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

年	月	日	内 容	報道機関
令和6	4	3	県平和祈念館 平和の尊さ訴える 開館12周年の催し	滋賀報知新聞
		8	支局長からの手紙「子供たちの言葉」	毎日新聞
		12	戦争体験者の証言映像製作	滋賀報知新聞
		12	県平和祈念館 新動画 2本公開	毎日新聞
		17	スマホの無料展示ガイドアプリを導入	滋賀報知新聞
		18	滋賀県平和祈念館 13年目を迎えて	滋賀報知新聞
	5	17	戦争体験談の聞き取り調査について	滋賀報知新聞
		17	戦時体制下 暮らし激変	京都新聞
	6	14	窮乏する地域の悲鳴 県平和祈念館「暮らしの中の戦争」展	毎日新聞
		14	2024年度子ども向け体験型平和学習「平和の学校あかり」を開校します	滋賀報知新聞
	7	7	第35回企画展示「戦場となった南洋の島々」	滋賀報知新聞
		11	名品手鑑Ⅲ 「飛燕」エンジン 戦争を語る	毎日新聞
		23	模擬原爆の報告書保存	毎日新聞
		29	支局長からの手紙「届かなかった写真」	毎日新聞
	8	1	南洋諸島での戦争体験紹介	中日新聞
		2	南洋諸島 戦禍の記憶	毎日新聞
		3	県平和祈念館で10日～15日 「平和祈念ウィーク2024」	滋賀報知新聞
		4	平和を祈念する日事業「平和祈念week2024」	滋賀報知新聞
		12	旧海軍の飛行場 語り継ぐ	読売新聞
		12	久徳飛行場の歴史を紹介	中日新聞
		15	「南洋群島」の戦争を伝える企画展	滋賀報知新聞
		15	戦争遺品 語るむなしさ	朝日新聞
		18	南洋の島々 戦禍の記憶	京都新聞
		25	中学生が調査 “先の戦争を風化させない”	滋賀民報
		30	朝日に輝いて砕けるヒコーキ	滋賀報知新聞
	9	8	平和学習 支援の取り組み	滋賀報知新聞
		29	湖国のミュージアム 見どころ案内 滋賀県平和祈念館	滋賀民報
	10	12	不戦の思い 静かに語る 地域交流室展示	滋賀報知新聞
	11	3	千羽鶴約2万羽を県平和祈念館に贈呈	滋賀報知新聞
		10	滋賀県平和祈念館 ボラティア活動	滋賀報知新聞
	12	1	身近な資料が語る 一わからなかったことがわかるー	滋賀報知新聞
		7	「平和の子」記憶受け継いで	朝日新聞
		7	戦時体験者の声に耳を傾け 小6、中3生「平和の礎」訪問	中日新聞
		16	元南海選手の日章旗返還	産経新聞
		25	非体験者による戦争体験の継承	滋賀報知新聞

年	月	日	内 容	報道機関
令和7	1	8	過去から未来を見据えて	滋賀報知新聞
		14	県平和祈念館企画展「戦時下の滋賀県民とスポーツ」	滋賀報知新聞
		15	スポーツが映す 戦争の実相	毎日新聞
		16	戦時下の滋賀県民とスポーツ 県平和祈念館で企画展	中日新聞
	2	9	第36回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」	滋賀報知新聞
		15	戦没の名選手 遺品一堂に	京都新聞
		16	平和な時代だからこそ 県平和祈念館で戦時下のスポーツ考える	湖国とりびゆめ
		25	開館13周年記念ウィーク	滋賀報知新聞
	3	2	滋賀県平和祈念館 開館13周年記念weekについて	滋賀報知新聞
		21	戦闘機隠した「掩体壕」見学	読売新聞
		31	戦没スポーツ選手 無言の訴え	朝日新聞

3 組織（令和7年3月現在）

（1）職員

館長	朝倉 敏夫
所長	松本 孝晴
専門幹	田井中洋介
副主幹	中西 まこ
副主幹	城野 達也
主任主事	川副 順平
主任主事	村田 明
会計年度任用職員	日高 昭子
会計年度任用職員	梅山 光彦
会計年度任用職員	木俣 美好
会計年度任用職員	杉村 陽子
会計年度任用職員	近藤 恵

（2）職員構成

区分	館長	行政職	学芸員	教育職	会計年度 任用職員	合計
人数	1	4	1	1	5	12

（3）滋賀県平和祈念館運営会議

座長	朝倉 敏夫	（滋賀県平和祈念館 館長）
委員	野村 赤一	（東近江戦争遺跡の会 世話役）
	中井 均	（滋賀県立大学 名誉教授）
	松浦 友一	（一般財団法人滋賀県遺族会 会長）
	野瀬 隆行	（東近江市立愛東コミュニティセンター 館長）
	大平 健太郎	（あいとうマーガレットステーション 専務理事）
	内田 知弥	（東近江市企画部企画課 課長）
	福島 栄寿	（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 会長）
	西澤 美重子	（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 副会長）

（4）滋賀県平和祈念館展示等監修委員

委員	原田 敬一	（佛教大学 名誉教授）
	原山 浩介	（日本大学法学部 教授）

4 決算（令和6年度）

○歳入状況

（単位：円）

科 目	決算額
基金繰入金	33,532,606
国庫支出金	753,000
諸 収 入	1,625,845
寄 附 金	360,515
一 般 財 源	0
合 計	36,271,966

○歳出状況

（単位：円）

事 業 名	主 な 事 業 内 容	決算額
管 理 運 営 費	施設維持管理費、施設運営費等	23,609,890
展 示 事 業	企画展示、地域交流室展示等	1,892,396
資 料 収 集 保 存 事 業	収蔵資料防虫防かび対策、収蔵資料等デジタルデータ管理・公開システム運用等	2,368,494
普及啓発事業	平和教養講座、映画上映会、平和の学校あかり等	1,686,754
平 和 学 習 支 援 事 業	平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール事業等	3,420,470
D X 推 進 事 業	平和学習コンテンツ制作	3,283,280
戦 後 80 年 平 和 交 流 事 業	平和交流事業	10,682
合 計		36,271,966

5 施設概要

所在地 滋賀県東近江市下中野町 431 番地

建物概要

構 造	鉄筋コンクリート	2階建
敷地面積	2,864.00㎡	
延床面積	3,115.45㎡	
	1階	1,759.03㎡
	2階	1,356.42㎡

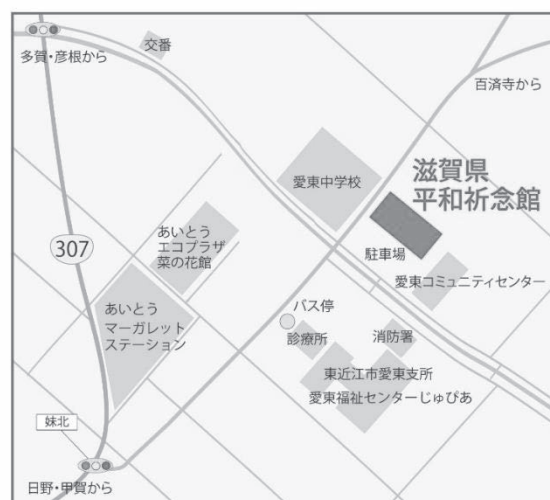
開館年月日 平成 24 年(2012 年)3 月 17 日

平面図



6 利用案内

入館料	無料
開館時間	午前 9 時 30 分から午後 5 時
休館日	月曜日および火曜日（ただし祝日にあたる場合は開館） 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日） ※その他、業務の都合により休館する場合があります。
駐車場	約 50 台（無料）
アクセス	



●車でお越しの場合

京都・大阪方面から・・・名神高速道路「八日市 I C」で下り、約 10 分
名古屋方面から・・・名神高速道路「湖東三山スマート I C（ETC 専用）」で下り、
約 10 分

●公共交通機関を利用される場合

J R 琵琶湖線 彦根駅または近江八幡駅で乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで
約 20 分、「愛東支所・診療所前」下車すぐ

7 関係規程

滋賀県平和祈念館の設置および管理に関する条例

平成 23 年滋賀県条例第 48 号

(設 置)

第 1 条 県民に戦争の悲惨さおよび平和の尊さを伝えることにより、平和を願う豊かな心を育み、もって平和な社会の発展に資するため、滋賀県平和祈念館（以下「平和祈念館」という。）を東近江市下中野町に設置する。

(業 務)

第 2 条 平和祈念館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県民の戦争に関する体験の記録その他の資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「資料」という。）を収集し、保管し、展示し、および利用に供すること。
- (2) 平和を願う豊かな心を育むために必要な普及啓発を行うこと。
- (3) その他平和祈念館の設置の目的を達成するために必要な業務

(開館時間等)

第 3 条 平和祈念館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

2 平和祈念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日および火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日である場合を除く。）
- (2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までの日

3 知事は、必要と認めるときは、第 1 項に規定する開館時間を変更し、または前項に規定する休館日を変更し、もしくは臨時に休館日を定めることができる。

(特別観覧の許可)

第 4 条 平和祈念館が保管する資料の熟覧、模写、模造、撮影その他の利用（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請し、その許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、前項の規定による申請があった場合において、次の各号のいずれかに該当

するときは、同項の許可をしないことができる。

- (1) 平和祈念館における秩序を乱し、または善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 資料または平和祈念館の管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他特別観覧を許可することが適当でないと認められるとき。

3 知事は、第1項の規定による許可をする場合においては、資料または平和祈念館の管理上必要な限度において、条件を付することができる。

(特別観覧の許可の取消し等)

第5条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の規定による許可を取り消し、または特別観覧を制限し、もしくは特別観覧の停止を命ずることができる。

- (1) 前条第1項の許可を受けた者（以下「特別観覧者」という。）が詐欺その他不正の行為によって同項の許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 特別観覧者がこの条例またはこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (4) 特別観覧者が前条第3項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 当該許可に係る資料が災害その他の事故により特別観覧に堪えなくなったとき。
- (6) その他知事が特に必要と認めたとき。

(委 任)

第6条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、規則で定める。

付 則

この条例は、平成24年3月1日から施行する。ただし、第2条第1号（資料の展示および利用に係る部分に限る。）および第4条の規定は、同月17日から施行する。

滋賀県平和祈念館 年報 第13号（令和6年度）

発行日	令和7年（2025年）9月1日
編集・発行	滋賀県平和祈念館 〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町431番地 TEL 0749-46-0300 / FAX 0749-46-0350 E-Mail : heiwa@pref.shiga.lg.jp
印刷	株式会社 ヒコハン



滋賀県平和祈念館 HP



この冊子はグリーン購入法適合紙を使用しています